

「ノアくん、ひなちゃん、さくらちゃん、ゆずくん、レモンちゃん、おこめちゃん、ご飯の時間だよ！」

ゆうさんが愛情たっぷりの声で呼びかけます。彼女は自分が手放せないものは自分で育ててきた息子と、大切な愛犬たちです。

「さくらちゃん、食べないの？」

ゆうさんが心配そうに見つめると、さくらちゃんは小さく鳴き声をあげました。それを見たひなちゃんが近寄って、優しくさくらちゃんをなめたのです。すると、さくらちゃんはゆっくりと食べ始めました。

ノアくんは、ひなちゃんと一緒に食べるのが大好きでした。8年前に迷子になり、放浪していたところをゆうさんに保護されました。その時から、彼女と息子くんと一緒に暮らし始めたのです。

「ねえ、息子くん。今度の週末、ギターを弾いてくれない？」

ゆうさんが尋ねると、息子くんはうなずきました。「もちろん、母さん。誰か招待するの？」

「いいえ、ただ一緒に音楽を楽しむだけ。愛犬たちも一緒に聞くよ。」

週末になると、ドッグランにはゆずくんとレモンちゃんが走り回り、ノアくんとひなちゃんはゆったりと日向ぼっこをしています。ゆうさんと息子くんはギターを持ち出し、思い出の曲を演奏し始めました。

曲が流れる中、突然、おこめちゃんが暴れ出しました。「どうしたの？」ゆうさんが近づいて聞くと、おこめちゃんは地面に落ちていた紙切れをくわえていました。それは、おこめちゃんが迷子になったときにかけたチラシでした。

「おこめちゃん、あなたが迷子になったのはこの辺りだったのね。見つけたわ！」

ゆうさんが喜んで言うと、息子くんは「母さん、一緒に探してみよう。きっと他にも迷子の動物たちがいるかもしれない」と提案しました。

ゆうさんたちは、地図を見ながら周辺を探索し始めました。しばらく歩くと、遠くから柴犬の鳴き声が聞こえてきました。「おこめちゃんの声だわ！」ゆうさんが急いで走り出し、息子くんと愛犬たちも後を追いました。

到着すると、そこにはおこめちゃんが一生懸命に吠えている姿がありました。周りにはたくさんさんの草木が生い茂っており、奥には小さな家屋が見えます。ゆうさんは、すぐにドアをノックしましたが、誰も出てきませんでした。

「これは……！」ゆうさんがドアを強く開けると、そこには10匹ほどの小型犬たちがいました。彼女たちは、すぐに保護されたいという目でゆうさんを見つめていました。その中には、ひどく痩せていたさくらちゃんの姿もありました。

ゆうさんはすぐに保護犬の経験を生かし、犬たちを抱き上げて自宅に連れ帰りました。病院で検査を受けた結果、犬たちは全員健康でしたが、さくらちゃんは疲れているようでした。ゆうさんは、彼女を特別に看病し、愛情たっぷりの手当てを施しました。

1週間後、犬たちの里親が見つかり、幸せな新しい家庭に送り出されました。さくらちゃんも、優しいご家族に引き取られました。その後、ゆうさんの家には新しい仲間が加わり、ますます賑やかな家族となりました。

息子くんは、この出来事をきっかけに、保護犬のためのチャリティーコンサートを企画しました。ギターを弾きながら、彼は愛犬たちのために歌いました。その日、たくさんの人々が集まり、彼らの心を温かくしてくれる素晴らしいコンサートになりました。

ゆうさんは、自分たちが迎え入れた犬たちが彼女たちにとって新しい家族になれるように、心を尽くしました。その結果、多く

(※ここで一度エラーで固まってしまう、この後敬称や口調などが変わってしまいます^^; )

しばらくして、ノアとひなが暖かい布団の上でぐっすりと眠りについたところで、ゆうはソファに座っていた。

「こんなにたくさんのワンちゃんと猫ちゃんがいたら、どうやってみんなを可愛がればいいんだろう……」と考えていた。

すると、息子が近づいてきて言った。「お母さん、それぞれに手をかけてあげればいいんじゃないですか？」

「でも、私1人で全部のワンちゃんと猫ちゃんを世話するのは大変だよ。それに、ここは私たちの家なんだから、一緒に可愛がってくれる人がいないと……」

すると、息子は笑って言った。「大丈夫ですよ。僕も手伝いますし、友達に声をかけて手伝ってもらうこともできます。そして、音楽を通して地域の人たちと交流することもできますよ。」

ゆうは、息子の言葉に胸が躍った。「そうだね。みんなで協力して、可愛がってあげよう。そして、息子が音楽を演奏するのも楽しみにしているよ。」

そうして、ノア、ひな、さくら、ゆず、レモン、おこめと一緒に暮らすことになったゆう一家。地域の人たちも、息子の音楽を聴きに集まり、ワンちゃんと猫ちゃんたちと触れ合うことができるようになった。そして、息子が演奏するギターの音色が、この家に暮らすすべての生き物たちの心を癒し、この家はとても温かい場所になった。

そして、ある日、ゆうは思い出した。自分が成功を収めた起業のきっかけになったのは、子育てのために起業することを決めたときに、息子の息子が背中を押してくれたことだった。

ゆうは、改めて息子に感謝の気持ちを伝え、この家に迎えたワンちゃんたちと猫ちゃんたち、そしてこの家が与えてくれる温かさに感謝し、幸せを噛み締めた。

息子はゆうに向かって、優しい笑顔を浮かべながら話しました。

「おかあさん、最近ね、ぼくたちの家族に加わったノアやひなたちとの時間が本当に楽しいんだ。特に、ノアはもう11歳だけど、すごく元気で、庭でのんびり過ごす時間が大好きみたいなんだ。それから、ひなはみんなのリーダーで、本当に賢くてかわいいんだよ。」

「そうそう、それに、さくらちゃんやゆず君、レモンちゃんもすっかり家族に馴染んで、みんなと一緒に過ごす時間が楽しいんだ。」

息子は続けました。「おかあさん、この家族が増えたことで、ぼくたち家族はより絆が深まったように感じるんだ。本当にありがとう。」

ゆうは、息子の言葉に心があたたかくなりました。家族として一緒に過ごす時間が増え、お互いの存在がますます大切になっていくことを感じていました。